

学校・家庭  
・地域連携編

# 1 学校・家庭・地域が一体となって子どもを育む

「社会に開かれた教育課程」を実現するためには、それぞれの学校において、地域社会とつながりのある目標を作り、それを地域社会と共有し、そのために求められる資質・能力を教育課程で明確にし、地域社会との連携及び協働によりその実現を図っていくことが重要です。

ポイント①

## 一体的・効果的な取組の推進

学校だけで子どもを育てるのではなく、地域住民と一緒にコミュニティ・スクール及び地域学校協働本部（活動）を一体的・効果的に運用することが求められています。

### これからの地域と学校をめざすべき方向

「開かれた学校」から一步踏み出し、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」が期待されています。また、地域の様々な機関がネットワーク化を図りながら、学校、家庭及び地域が相互に協力し、子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制を構築し、「学校を核とした地域づくり」を推進することも求められています。

そのために

コミュニティ・スクールと地域学校協働本部（活動）が一体的に推進

そうすることで

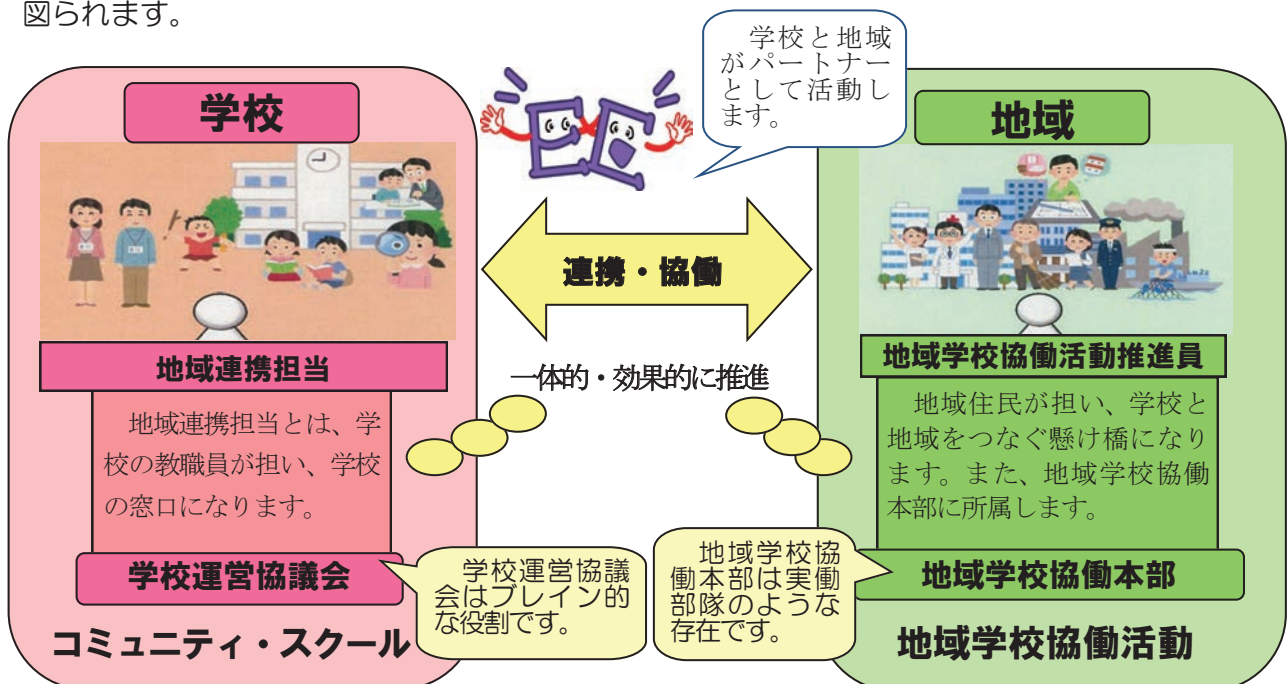
- ・地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生することができる。
- ・子どもたちの教育の質を格段に向上させることができる。

地域が学校支援するのではなく連携・協働をめざします。



### コミュニティ・スクールと地域学校協働本部（活動）の関係

学校と地域の効果的な連携・協働と推進を図るためには、学校運営協議会と地域学校協働本部が両輪となり運営していくことが大切です。地域人材が学校運営協議会・地域学校協働本部の構成員を務めるなど、それぞれの知見、経験、課題等の共有により一体的・効果的な推進が図られます。



## コミュニティ・スクール（CS）とは

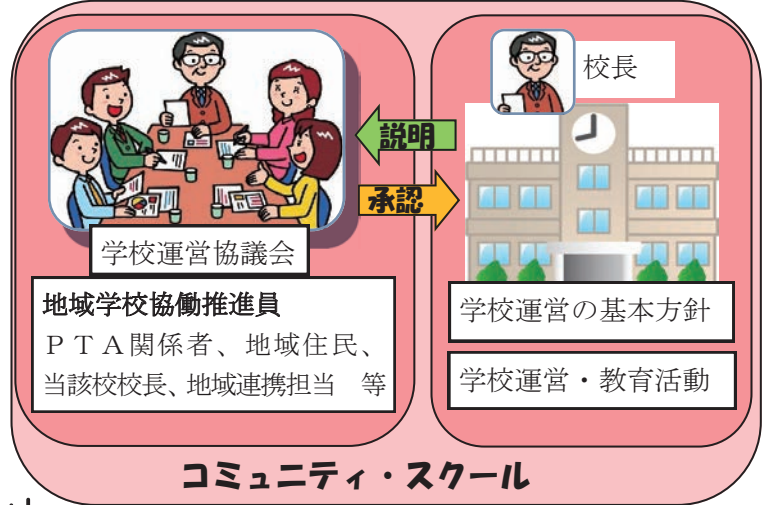
コミュニティ・スクールとは、学校と地域住民や保護者等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換するための仕組みです。

「学校運営協議会」を設置している学校



**コミュニティ・スクールの3つの機能**  
(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の6)

- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べる事ができる
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べる事ができる



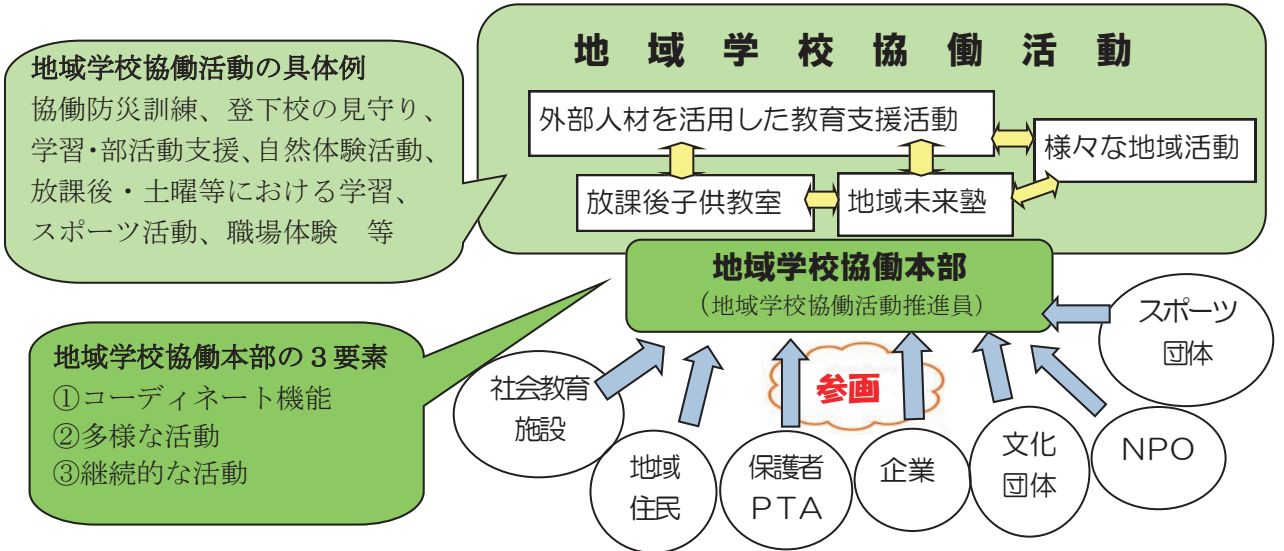
### 運営に欠かせない3つのポイント

- 熱議** (熱議): 目標やビジョンを共有する。
- 協働** (協働): 共有したビジョン・目標に向けて、できることをする。
- マネジメント** (マネジメント): 中核となる学校は、校長のリーダーシップのもと学校と地域を結びつけるマネジメントをする。

保護者・地域住民等が学校運営協議会を通じて「地域でどんな子どもを育てるのか」というビジョンを共有し、当事者として学校運営に参画します。

## 地域学校協働活動（本部）とは

地域学校協働活動とは、地域の高齢者や保護者だけでなく、民間企業や団体、NPO等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。地域学校協働本部は、地域学校協働活動を行う上で中心となり、学校運営協議会と一体的・効果的に活動を推進する組織です。



**地域学校協働本部の3要素**

- ①コーディネート機能
- ②多様な活動
- ③継続的な活動



一方的な活動だったものから、地域と学校が目標を共有して行う連携・協働型の活動をめざしましょう。

## ポイント②

# 学校運営協議会と地域学校協働本部を結ぶ

地域連携担当（教職員）と地域学校協働活動推進員が設置されることで、学校運営協議会と地域学校協働本部が連携を図りやすくなり、活動が活性化します。

## 学校運営協議会と地域学校協働本部の構成員（仮）



### <想定されるメンバー>

地域学校協働活動推進員、PTA関係者、地域住民、学識経験者、民生委員、当該校校長、**地域連携担当（教職員）** 等

実質的で活発な議論を通じて学校運営協議会としての一定の方向性を決定できる程度の人数が必要です。

### <想定されるメンバー>

地域学校協働活動推進員、PTA役員、公民館長、NPO、青年団、民生委員、スポーツ団体 等

地域学校協働活動推進員とは、地域住民と学校との情報共有や助言等を行う者で、教育委員会が委嘱します。

## 地域連携担当（教職員）と地域学校協働活動推進員の役割

地域連携担当（教職員）と地域学校協働活動推進員は、情報を共有しながら連携を密にし、進めることが大切です。

地域連携担当（教職員）は、地域資源を生かした学校活動、授業開発を進める中核



地域連携担当（教職員）

- 校内・学校間（校区間）・教育委員会との連絡・調整
- 校内教職員等のニーズの把握
- 地域や保護者、関係機関との窓口 等

地域学校協働活動推進員は、子どもの成長に貢献する資源に関する情報を集め、地域にその意義を伝える中核



地域学校協働活動推進員

- 地域住民と学校との情報共有
- 協議結果に関する地域住民への情報提供
- 地域ボランティアの募集・確保
- 活動を行う地域住民への指導助言 等

連携を密に



日頃から地域資源の開発を手掛けておくことで、豊富な学習機会が得られます。お互いに連絡を取り合いながら活動を進めていきましょう。

## コミュニティ・スクール（CS）の取組

### <鳥取市立南中学校区>



南中学校区一斉あいさつデー。  
毎月第一水曜日に行っています。

校区学校運営協議会で、どのような子どもを育てるかを学校と地域が共通理解し、CSテーマを「凡事徹底～志を持つ子を育てるために～」と設定。地域が学校運営を理解したうえで活動を行っています。



南中CSの取組。育てた花を地域の方へプレゼントします。



校区学校運営協議会。よりよい学校運営を考えます。

### <鳥取市立米里小学校>



5年生を中心に地域の方と全校で米作り。収穫祭も行います。

CSと地域学校協働本部が一体となり、学校と地域とが結びついています。校務分掌の中にも地域連携担当を位置づけ、活動がスムーズに進むよう取り組んでいます。



放課後子供教室。地域の方に見守られ、黙々と学習します。

見守り&パトロール。地域主体で子ども達を見守ります。



### 東部地区の各学校でこんな取組をしています！

かけ算九九支援、通学路整備、地域文化継承、避難訓練、職場体験、ミシンボランティア、クラブ活動、書道指導、音楽指導、地域歴史探訪のゲストティーチャー、調理実験補助 等

### コミュニティ・スクール導入で期待できる効果

#### <地域>

- 子どもたちに積極的に声をかけたり、指導したりする場面が増加します。
- 学校任せにするのではなく、地域住民等が学校と共に対応策を考え、解決していきます。
- 学校が社会的なつながりを得られる場となり、地域のよりどころとなります。
- 学校の現状や運営方針について理解が深まり、地域が学校の応援団となります。

#### <学校>

- 多くの大人の専門性や地域の力を生かした学校運営や教育活動ができ、活気が出ます。
- 学校・家庭・地域の適切な役割分担で、教職員が子どもに向き合う時間の確保につながります。
- 地域住民等の考えや地域の特性を生かすことで、学校での学びがより豊かで広がりを持ちます。
- 地域と一緒に防災訓練を行うことができ、地域にも協力してもらうことができます。

学校を含め、地域全体で子どもたちを育てていくというビジョンが大切です。

## 2 魅力ある懇談会・研修会の進め方

学年・学級懇談や研修会は情報共有の場です。教員だけでなく、保護者が主体的に参加し、話し合うことが望めます。お互いの意見を聞くことのできる充実した時間となるよう、参加型の懇談会や研修会をしてみましょう。

### ポイント①

### 参加型で活性化

困った時こそ参加型の研修会等が有効です。参加型のメリットを知り、充実した懇談会・研修会にすることで、その後の活動も活性化します。

#### こんなことを感じたら参加型に

- 懇談会や研修会等で意見が出ない。
- 積極的な話し合いになっていない。
- 初めて同士緊張感が感じられる。
- 話を聞いてばかりで一方通行だと感じる。

- たくさんの新たな情報を得ることができる。
- 楽しい雰囲気での話し合いができる。
- 教員と保護者、保護者同士など横のつながりを作ることができる。
- 悩みや疑問を解決することができる。
- 学級や学年、学校全体に活気が出る。

### ポイント②

### 懇談会・研修会活性化のコツ

「参加してよかった」「また来てみたい」と思える懇談会・研修会にするには、準備が必要です。会の目的に合わせて計画的に準備をしましょう。

#### 情報を集め、計画を立てる

- 事前に保護者の悩みなどを生活ノートやアンケート、他の教職員からの情報で把握する。
- アンケートの結果等から、会で話し合うテーマを決める。
- 年度当初に会の年間計画を学級役員と相談して立てる。  
保護者会の運営方法、テーマなど
- アンケートの結果、資料等を作成する。  
普段から積極的に保護者と話をしておくと、保護者の関心事が分かります。

<アンケート例>

#### ○学年保護者会アンケート

- ◇月△日の○学年保護者会は、「生活習慣を整えよう」をテーマに実施いたします。よりよい内容にするため、下の内容のアンケートにご協力下さいますようお願いいたします。
- 日頃、生活習慣のことで気になっていらっしゃる事があれば、どんなことかお書きください。その他、どんなことでも書いていただいて結構です。**当日の参加、不参加にかかわらず**、ご意見をいただければ幸いです。

◆月▲日(●)までに、担任へ提出して下さい。

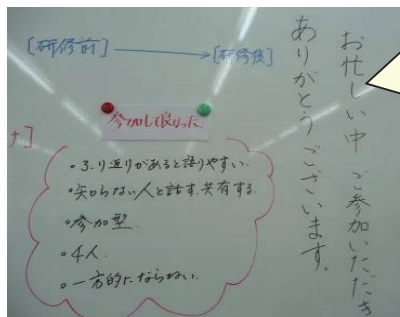
#### 会の案内を工夫する

- お便りで会の案内をしましょう。テーマや会の流れなど書いておくともよいでしょう。会の名前を工夫するのも効果的です。  
例：第1回学年懇談会「初めての○年保護者サロン」のお知らせ

黒板には保護者をもてなす言葉を書いておきましょう。

(写真：東部教育局主催ワークショップより)

アンケートは、負担の少ない簡単なものにしましょう。また、何についてのアンケートなのか、テーマを書いておきましょう。



## 話しやすい雰囲気作りを考える

- 学校生活の写真や動画、児童の作品を自由に見られるようにしておく。
  - 保護者同士の会話が弾み、担任も話しかけやすくなります。
- 一人ではなく、「みんなで考える」場作りを設定しておく。
  - 教室等に入った時の雰囲気も大切です。机を合わせて、グループを作っておくことで雰囲気もガラッと変わります。
- 話し合う前には、アイスブレイクで和やかな雰囲気にする。
  - いきなりの話合いは緊張するものです。笑顔になれる活動をやってみましょう。自己紹介では、名前だけでなく「子どもが夢中になっていること」「苦手な食べ物」などを付け加えると共感を得られます。
- 話し合いやすいように、付箋やワークシート、模造紙などを準備する。



1グループは、4～6人程度の人数で座れるように机を合わせておきます。保護者と一緒に会場設営すると会話のきっかけとなります。

〈写真：東部教育局主催ワークショップより〉

## テーマを工夫する

- 保護者の関心の高いテーマにすると参加しようという意欲も湧きます。また、わかりやすいテーマの方が参加しやすくなります。
- 例：「担任の思い・保護者の思い」「わが子の生活習慣、大丈夫？」  
「子育てって」「子どもにとって本当に大切なものは」



## 話合いのルールや流れを確認する

- 会の前に、「参加」「尊重」「守秘」を確認する。
  - 参加者の自己開示を促すきっかけづくりになります。
- 教員の話は、伝えたいことを絞って話す。
  - だらだらと長い話は、禁物です。伝えたいことはあらかじめ文章にまとめておくとよいです。
- 教員自ら「傾聴する姿勢」を示す。
  - 「うなずき」や「あいづち」の動作は相手により印象を与えます。どんな意見に対しても、尊重し受け入れる心持ちが大切です。
- 「話合いの流れ」を工夫する。
  - 「個人」⇒「グループ」⇒「全体」
- 会の運営をコントロールする。
  - あらかじめ、話合い等の時間を設定しておくとの流れがスムーズになります。



「とっとり子育て親子プログラム」「人権教育プログラム綴」を参考にしましょう。

### 「参加」「尊重」「守秘」とは・・・

- 「参加」… 積極的に参加する。でも、どうしても参加できない時は「パス」もOK。
- 「尊重」… 参加者一人一人の考えを尊重する。
- 「守秘」… 参加者の個人的な情報は守る。



## ファシリテーターを決める

会を進めるにあたってファシリテーター（進行役）は重要なポイントです。保護者任せではなく、慣れるまでは教員がしていきましょう。また、保護者が進行する場合は入念な打合せや台本等があるといいでしょう。

＜ファシリテーターの役割＞

- 会の進行
- グループ編成の決定
- オリエンテーション・アイスブレイク
- 適切なグループへの関わり（アイデアの引き出し役）
- 発表等に対する適切な助言
- ワークショップのまとめ

## より多くの保護者が参加できるための工夫

- 託児教室を設ける。（宿題、映画鑑賞なども）
- 懇談会、研修会等の時間を短く設定する。
- 日程を工夫する。（例：給食試食会→懇談会、研修会→授業参観、発表会→研修会 等）
- 会の名前を工夫する。（○○サロン、◇◇お悩み教室 等）

### ポイント③

## 活動を工夫して活性化

ワークショップとは、参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で討議したり創作したりする学びや創造のスタイルです。ワークショップでは「導入・展開・まとめ」の流れを確認し、会がスムーズに進むように活動内容を工夫することが大切です。

### 導入

オリエンテーション・アイスブレイク  
(目的を共有し、雰囲気をもたせる)

- ねらいや活動内容を確認します。
- 簡単なゲームなどで、初対面の緊張をほぐし、気軽に思いや考えを話すことができる雰囲気をつくります。

### 効果的なアイスブレイクを取り入れる



アイスブレイクにより緊張をほぐし、温かい雰囲気を作ることで話し合い活動が活性化します。緊張がほぐれなければ、2～3種類実施してもいいでしょう。

### 簡単にできるアイスブレイク例

#### キャッチ

全員で輪になります。左手で筒を作るように軽く握ります。右手の人差し指を右隣の人の左手の筒に上から入れます。ファシリテーターの「キャッチ」の合図で人差し指を筒から引き出すと同時に左手は相手の人差し指を逃がさないように握ります。「キャベツ」「キャンプ」など違う言葉を入れると楽しくなります。

#### インパルス

みんなで手をつなぎます。スタートの人を決め、その人から右隣の人の手をギュッと握っていきます。握られた人は隣の人の手を握っていき、次々と握手を送っていきます。スタートの人に戻ってくるまでの時間を計ると楽しくなります。

#### 30カウント

円になり、順番に30まで数えるが、2のつく数字の時は声を出さずに手を打ちます。上手になったら2と3のつく数字や3の倍数、4の倍数というようにしても楽しくなります。

### グループをつくるアイスブレイク例

#### 仲間さがし

ファシリテーターは、同じ仲間を探すキーワードを言います。(生まれた月が同じ人、好きな動物等) ジェスチャーや口の動きだけで探してもらおうと盛り上がります。できたグループごとに、どういう仲間か発表してもらいます。



1 グループは、通常4～6人が適当ですが、その後のワークショップの内容を考えて、設定しましょう。

#### わたしは なあに？

背中など本人に見えない所にももの名前を書いた紙を貼り、お互いに「Yse/No」で答えられる質問をし、背中に書かれているもの名前を当てます。質問する相手を変えながら自己紹介もできます。正解した人から座っていく等、グループ作りにも活用できます。

#### バースデーライン

ジェスチャーだけで、お互いの誕生日を確認し、1月1日生まれから12月31日生まれの順で並びます。並んだ後に「1・2・3・4・5・1・2・3・4・5…」とグループの数と同じ番号を言い、同じ番号の人でグループを作ることができます。

## 展開

アクティビティ  
(主たる活動)

- 身近なテーマについて、グループで自分の思いを意見交換します。
- 子育ての悩みや情報を共有しながら楽しく話し合いを進めます。

## 話し合いのテーマに沿った活動を選択する

### 主たる活動の例

#### ダイヤモンドランキング

(例) 「子どもにとって本当に大切なものは」

- ①ブレインストーミングで、「子どもにとって大切なもの」を挙げていく。
- ②出てきた意見の中から9つにまとめる。
- ③9つの意見の中から順位付けをする。
- ④1位と9位になったものを発表し、その理由も伝える。



〈写真：東部教育局主催ワークショップより〉

#### ワールドカフェ

(例) 「履歴書に必要なものは」

- ①履歴書に書かれている項目を挙げる。
- ②付箋に項目を書き、必要か必要ないかをグループで相談しながら模造紙に貼っていく。
- ③グループで一人残り、残りの人は他のグループの考えを聞きに行く。(数回繰り返す)
- ④元のグループに戻り、他のグループで出た意見を出し合い、考えを深める。



## まとめ

振り返り

- 活動で気付いたことを個人やグループで振り返ります。他の人の感想を聴くことにより、新たな気づきが生まれます。
- 参加者同士の一体感も強くなり、ネットワークが生まれます。

## 活動の振り返りを行う

### ○個人・グループでの振り返り

活動で気付いたことや学びをワークシートに記入して、グループ内で情報交換する。

### ○全体での振り返りの共有

各グループの代表が発表し、全体で共有する。

### ○進行役のまとめ

全体で共有した情報を踏まえ、意見をまとめたり、担任としての思いを話したりして、家庭と学校が共に取り組んでいくことを確認する。



保護者の中には人前で話すことが苦手な方もあります。人前で発言する機会は最低限にしましょう。

多くの保護者に参加してもらえそうな工夫を少しずつ取り入れることで会の雰囲気は変わります。保護者が参加して良かったと思える懇談会や研修会にいきましょう。